

知的能力障害を伴う ASD の児童へのアニメーションセルフモデリングを用いた手洗スキルの指導研究

西田裕明

（兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科）

井澤信三

（兵庫教育大学大学院）

KEY WORDS: 自閉スペクトラム症 アニメーションセルフモデリング 家庭生活スキル

I. 目的: 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行に伴い、新しい生活様式の実践が求められるようになった（厚生労働省、2020）。具体的には 3 密（密閉・密集・密接）の回避やマスクの着用、こまめに手洗い・消毒を行うなどである。それらの取り組みは障害のある児者にとって変化の大きい出来事である。国立障害者リハビリテーションセンターの発達障害のある当事者・家族向けアンケート調査（2021）によると、発達障害児者は新しい生活様式に取り組むなかで困り感を多くかかえており、心身の不調を感じている人が多くいたと述べている。また、発達障害児者の保護者・家族は、新しい生活習慣への戸惑いや精神的な負担を感じている人が多くみられ、それらの軽減が求められている。さらに、手洗いの際に声かけをしたり、歌を歌ったりするといった支援を行う保護者の記述も見られ、発達障害児者がストレスを感じることなく、自分自身でスキルを遂行できるように訓練していくことが必要である。

本研究は、手洗いはできるものの「丁寧さ」や「清潔さ」が十分ではない知的能力障害を伴う自閉スペクトラム症（以下、ASD）の児童に対し、アニメーションセルフモデリング（西田・山本・井澤、2020）を視聴し、新しい生活様式に対応した手洗スキルの獲得と般化について検討することを目的とする。

II. 方法

1. 対象児: 公立中学校の特別支援学級に在籍し、本研究開始時の生活年齢が 13 歳 10 ヶ月の知的能力障害を伴う ASD の男子児童（以下、A 児）であった。13 歳 7 ヶ月での新版 K 式発達検査による発達年齢は、認知・適応が 6:9、言語・社会が 6:4、全領域が 6:7 であった。A 児はアニメやテレビを見るのが好きであった。A 児の保護者に書面及び口頭により、研究の目的、手続き、予想される結果等の説明を行い、同意を得た。

2. 指導期間および場所: 指導期間は約 6 ヶ月で、セッションは計 13 回、1 回あたり約 3 分を行った。指導場所は X 市発達支援センターの相談室及びトイレの洗面所とした。

3. 標的行動: 家庭での様子を保護者に聞き取りしたところ、A 児は手洗いを行うことはできるが、数秒ほどで終わるため、保護者は声かけをすることが多かった。また、声かけや手本の提示があっても、「丁寧さ」や「清潔さ」に欠ける状態であった。そのため、新しい生活様式に対応した手洗い（厚生労働省、2020）を行ってほしいという希望が保護者にあった。A 児自身は「新型コロナウイルスに感染したくない」という思いがあった。よって標的行動は「新しい生活様式に対応した手洗スキルの獲得」とした。新しい生活様式に対応した手洗スキルとは、厚生労働省が令和 3 年 6 月 19 日に公開・修正した、「新しい生活様式の実践」と「啓発資料、感染対策へのご協力をお願いします①手洗いの手順」を参考に「30 秒程度かけて水と石けんで丁寧に手を洗う」とした。

4. 課題分析: 標的行動の下位項目について課題分析を行った。その結果、20 項目にまとめられた（Table 1）。

5. アセスメントと指導方針: 指導開始前に 2 回 A 児の実態を観察した。観察は、A 児が X 市発達支援センターのトイレを使用した際に行った。A 児の手洗い時間は 5 秒から 10 秒で、液体石けンを泡立つ前に水で洗い流したり、手のひらだけを洗ったりする様子が見られた。それらの観察と A 児の実態及び保護者への聞き取りから、歌に合わせて手洗いを行うと標的行動が達成できるアニメーションセルフモデリング（以下、ASM）教材を製作し、介入 2 に用いることとした。また、比較検討のために、手順書に沿って手本モデルを観察する介入 1 も行うこととした。

6. デザイン及び手続き: 本研究では、ABCA デザインを用いた。ベースライン、介入 1（手順書＋手本モデル）、介入 2（ASM）、テストを行った。

ベースラインでは、A 児が手洗いする様子を観察した。介入 1 では、手順書に沿って手本モデルを観察してから手洗いを行い、介入 2 では、歌入りの ASM 教材（歌は著者である MT が作詞・作曲した）を視聴した後に手洗いを行い、テストでは手順書や手本モデル、歌入りの ASM 教材は提示せず、A 児がトイレを使用する際に手洗いを行う様子を観察した。

全セッションで正反応や誤反応の場合でも言語賞賛や行動の修正などのプロンプトは一切行わなかった。A 児が手洗いを終えて指導室に戻ったら、MT は「よく頑張りました」などと賞賛し、課題を終了した。なお、この賞賛は正反応や誤反応の多さに関わらず全てのセッションで行った。

III. 結果及び考察

ベースラインでは、4 セッションの標的行動の平均得点が 20 点満点中 5.5 点であった。手順書と手本モデルを見た後に手洗いを行う介入 1 では、3 セッションで標的行動の得点が 11 点であった。歌入りの ASM 教材を視聴した後に手洗いを行う介入 2 では、全セッションで 20 点満点となった。また、テストでも全セッションで 20 点満点となったことから、A 児は標的行動を獲得・般化したといえる。

本研究の A 児に対しては、手順書と手本モデルを見るより、歌入りの ASM 教材を視聴してから手洗いを行う方が、「丁寧さ」や「清潔さ」が求められる新しい生活様式に対応した手洗スキルの獲得に有効であると示唆された。

Table 1 手洗スキルにおける標的行動の得点

セッション	ベースライン							介入 2 (ASM)							テスト				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
1 水で手を洗う (右手)																			
2 水で手を洗う (左手)																			
3 石けんやハンドソープで洗う (右手)																			
4 石けんやハンドソープで洗う (左手)																			
5 手のひらを洗う (右手)																			
6 手のひらを洗う (左手)																			
7 手の甲を洗う (右手)																			
8 手の甲を洗う (左手)																			
9 指先を洗う (右手)																			
10 指先を洗う (左手)																			
11 指の間を洗う (右手)																			
12 指の間を洗う (左手)																			
13 親指を洗う (右手)																			
14 親指を洗う (左手)																			
15 手首を洗う (右手)																			
16 手首を洗う (左手)																			
17 水で手の泡を洗い流す (右手)																			
18 水で手の泡を洗い流す (左手)																			
19 ハンカチで手を拭く (右手)																			
20 ハンカチで手を拭く (左手)																			
標的行動の得点	6	5	6	5	11	11	11	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20

・ □ は正反応、■ は誤反応を表している。

(NISHIDA Hiroaki, ISAWA Shinzo)